



三到図書館 ニュース

2014年4月発行
No.74

J. F. Oberlin University Library

◇巻頭メッセージ

◇新入生へのメッセージ

◇読書運動プロジェクト

◇図書館長と話そう

◇研修会報告

◇図書館からのお知らせ

巻頭メッセージ

数学嫌いな学生のみなさんへ

リベラルアーツ学群教授・数学専攻 芳沢 光雄

本学は元々文系学問が中心の大学であったことから、数学嫌いな学生は多く在籍しています。私は、かつて純粋数学の静かな研究者でしたが、20年ぐらい前から数学教育に軸足を移してきました。それゆえ、本学ではすべき仕事がたくさんあります。

20年間の数学教育活動で主に大切にしてきたことは二つあります。「数学は答を当てる学問でなく答を導く学問である」、「数学は生活に結び付いた楽しい話題がたくさんある」ということです。2013年12月4日にOECDの学力調査PISAの結果について、私は日本経済新聞と共同通信配信の地方新聞にコメントを発表しましたが、やはりその二点を強調しました。

本学には2007年から勤めており、それ以前は22年間、理学部数学科の教員でした。その当時から数学嫌いな生徒に直接話し掛ける機会を得るために、全国の小・中・高200校近くで出前授業をやってきました。本学では、「自然科学基礎（数学の発想）」や「数学概論」などのリベラルアーツ学群の授業を通して、数学嫌いな学生のみなさんの気持ちを変える努力をしてきました。それとは別に、数学の教員を目指す学生向けの「中等数学科教育法」や、専門の「離散数学」などの授業も担当しています。

実は2014年度から、全学の数学嫌いな学生を主な対象とする「数の基礎理解」という授業を計画しています。背景には、現在は就職の適性検査や多くの授業で算数・数学の基礎的事項の理解が欠かせないことがあります。比と割合、概算と検算、確率の考え方などを、受講するみなさん全員に根本から楽しく理解してもらうことを目指します。「数式を見るだけで頭が痛くなる」という大の数学嫌いな人達を大歓迎する授業で、数学教育人生の総決算のつもりで頑張る気持ちです。

数学嫌いな学生のみなさんに質問します。意味を

説明されないで、「やり方」だけ教えられていると、それをふと忘れても手も足も出なくなったりしたことはありませんか？人間として立派に生きているつもりでも、数学が不得意なことで人間性まで問題にされて、数学嫌いな気持ちが芽生えたことはありませんか？スキー、自動車、包丁さばき、どれをとっても最初はゆっくり習いますが、算数・数学は怪我がないことをいいことに、最初からスピードアップを強要されたことはありませんか？それらは、どれも数学教育の失敗に繋がることを、私は決して忘れません。



最後に、私の人生最後の大きな夢を紹介させてください。バートランド・ラッセルの「ひとつがいの雉も2日も、ともに2という数の実例であることを発見するには長い年月を要したのである」という言葉があります。その言葉を歴史的に説明すると、紀元前8000年ごろ近東では、個々別々の物の個数を1対1の対応によって管理する、それぞれの物に応じたトークンという粘土細工がありました。紀元前3000年ごろ、穀物の個数を管理するトークンで羊の個数他を管理することになり、それが数の発見と考えられます。ラッセルの上記の言葉はこの歴史を述べているのです。私の夢は、この歴史を振り返るようにして犬に算数を教えることです。20年後のある日、私が犬と一緒にテレビに出演して、皆様に「あの先生に算数・数学の基礎を根本から習ったよ。将来、犬に算数を教えたいって言っていたよ」と言わせてみたいのです。

最後に、三到図書館には拙著もいろいろ入っていますので、積極的に活用していただければ幸いです。

「関数」と「極限」から見える世界

リベラルアーツ学群教授・数学専攻 榮田 厚彦

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんは新しく大学生活を迎えられる喜びに満ちあふれていることと思います。その中には新しいことを学べる喜びも含まれているかと思っています。私はリベラルアーツ学群で数学専攻を担当していることもあって、ここでは一言、数学の話をしたしたいと思います。

皆さんは「関数」という言葉を聞いたことがあるかと思っています。「関数」というのは易しく言えば一通りに決まる対応です。例えば、時間と場所を決めると気温が決まりますが、いろいろな値が出てくるのではなく、気温はそのとき一通りに決まりますね。気温は時間と場所の「関数」と考えられます。次に、では、この対応をどう表そうかとなりますが、時間と場所は変えて考えることができますから、これらは変数の扱いとなります。仮に時間を t 、場所を x とすると対応する気温は $f(t, x)$ などと表示できます。これが関数の表示となります。さあ、では、これを t や x を使って具体的にどう表すかですが、基本的な関数が必要となります。1次関数や2次関数はおそらく聞いたことがあるかと思いますが、いろいろな変化の様子を表そうとすると、どうもそれだけでは足りませんで、高校の教科書に登場するような基本的で具体的な「関数」はどうしても必要です。それではものすごく多くの「関数」をいちいち覚える必要があるかという、そうではありません。数を値としてもつ「関数」は足したり引いたり掛けたり(0で割るのを除きますが)割ったりできますが、それに少し味付けした「極限」という操作をすれば、実は、覚えるべき関数はほんのわずかで済むのです。

わずかな関数の組み合わせでいろいろな関数が表せるということが発見されたのは実はそんなに古いことではありません。さらに、この「極限」が何者であるかを数学的にきちんと定式化できたのは19世紀になってからです。高校でも「極限」は習いますが厳密なものでも系統的なものでもありませんの

で、残念ながらここで数学を誤解してしまう人々が少なからず出てしまうようです。しかしながら数学史上の偉大な先人たちも正当化に苦慮しておりましたので、そこは鷹揚に構えて一歩一



歩着実に理解を深める形で「極限」と付き合ってみたいものです。付き合うために皆さんにはぜひ図書館を積極的に活用していただきたいと思います。

「極限」と関係が深い「微分積分学」「解析学」などというキーワードがある書物をいくつか手にとって眺めるだけでも結構勉強になると思います。なお、現代の数学ではこの「極限」を積極的に活用しておりまして、仮に数学もしくはそれを活用する専攻を志すことを考えるなら、これ無しで何とかしようと思えるべきではありません。さらに、計算技術さえこなせば良いという発想もやめなければいけませんで、論理的に理解する努力が求められます。もちろん、普通の大学レベルの範囲内としての対象だということも急いで付け加えておきますし、易しく解説した本もいくつか出ていますので、ぜひチャレンジしてみたいと思います。

もしかしたら皆さんの中には「微分方程式」という言葉を聞いたことがある方がいるかもしれません。実は、世の中で変化を示す現象の多くはこの「微分方程式」で表すことができまして、理工系、経済系、社会系等、ありとあらゆる分野に登場してきます。これがすでに述べました「関数」「極限」の一つの姿です。今回は紙面の制限もあり、あまり具体的なことは申し上げられませんが、数学と付き合う際の一つの心構えを述べさせていただきました。

 新入生へのメッセージ

数学を学ぼう



数学を苦手だと思っている学生の皆さんは、多いのではないのでしょうか？

芳沢先生のメッセージに書かれているように、桜美林大学では2014年度から、数学が嫌いな皆さんに、数学に親しみを持ってもらったり、楽しく理解してもらえような授業が開催されます。リベラルアーツ学群が開設されて以来、自然科学系・理数系の科目を学ぶ学生が増えてきていて、図書館でも自然科学系・理数系の蔵書を増やしています。今回の図書館ニュースでは「数学」をテーマに取り上げ、先生方だけでなく数学を専攻している2人の学生にも、数学に興味を持ったきっかけについて書いていただきました。これを読んだ皆さんが、少しでも数学を身近な学問と感じてもらえればと思います。



リベラルアーツ学群3年 沼田 光

.....

私が大学で数学を学びたいと思った理由は、数学教員になることを希望しているからです。

数学教員を目指そうと思った一つめの理由は、数学の魅力や達成感を生徒に伝えたいからです。私は中学、高校時代は数学が苦手でした。しかし、大学受験をするにあたって猛勉強しました。苦手な分野の問題を何度も反復することで、解ける問題が多くなり、数学が楽しいと思えるようになりました。一つの解答が出る度に大きな達成感を得ることが出来ました。現在は数学に苦手意識を持っている生徒は多く、かつての私と重なる部分があります。しかし、自らの努力によって苦手を克服出来ること、解答が出たときの楽しさ、達成感をより多くの生徒に伝えていけたら良いなと考えています。

教員になりたい二つめの理由は、生徒に人を思いやる心や、自らの成長のために努力することの大切さを伝えていきたいからです。私は高校時代から、チアリーディング部に所属し活動してきました。一見華やかに見えるスポーツですが、観ている人に感動を与える美しい演技をするためには、強い身体と精神力が必要です。練習が辛いと思うことが多々ありましたが、目標に向かって努力を続けてきました。私はその中で、相手を思いやることや、努力の大切さを学びました。それは、チアリーディングをする時だけでなく、人として成長していく上でとても大切なことだと思います。私がチアリーディングを通して学んだことを、一人でも多くの生徒に伝えていきたいです。

桜美林大学には、夢を叶えるための最高の環境が整っています。あとは自分次第です。これからもより多くの経験を積み、立派な数学教員になれるように精進していきます。



リベラルアーツ学群3年 永井 一輝

.....

数学ができれば格好良い。ある本で登場した数学者に憧れを抱いた当時の私は高校三年生で受験勉強の真ただ中でした。文系選択だったのですが、数学への憧れから進路を変えました。このようなことが私の数学を勉強し始めるきっかけになりました。

受験を終え、地元の国立大学の経済学部合格しました。経済学部でも数学を学びますが、やはり学ぶなら本格的に勉強したいと思い、三期入試で桜美林大学を受験しました。他にも理学部を持つ大学はありましたが、桜美林大学には芳沢教授がおられたのと、リベラルアーツ学群があったからです。

数学を勉強する過程で、数学はそれだけを学ぶだけではもったいない。たくさんの物事に繋がっているのだから、理解して、何に繋がっているのかも学びたいと思うようにもなりました。桜美林大学のリベラルアーツ学群は二年生から専攻を決め、本格的に学び始めますが、どの専攻も括りは一緒に気軽に他専攻の講義も受講できるというのが、私の学びたいスタイルと一致していました。また、芳沢先生は数学教育に力を入れておられる方で、先生の著書を読んで、どのように算数、数学を教えれば興味を持つか、ということを考えている方なのだ、と感じたということもあり、桜美林大学で数学を専攻しようと決めました。

数学は多くの分野と繋がりを持っています。リベラルアーツという特別な環境に身を置いたら、様々な講義を受け、知識をリンクさせていくとより楽しめると思います。



読書運動プロジェクト

図書館読書運動プロジェクト活動報告



2006年度から始まった図書館読書運動プロジェクト（以下、読プロ）も、早いもので、今年（2014年度）で9年目を迎えます。学生・教員・大学生協・図書館の協同である読プロ委員会で運営される読プロですが、この間にさまざまな学生委員たちが読プロ活動に参加してきました。読プロの発案者であり、現在も積極的に運営に関わっている片山博文教授（環境経済学／リベラルアーツ学群）を中心に、先生方にもさまざまなかたちで協力を仰いでいます。大学生協の担当者も異動により現在で3人目となり、図書館も業務委託化や人事異動等で職員の係わり方も大きく変わってきています。また、年末の読書イベントにお招きしたゲストはピーター・フランクルさん、三浦しをんさん、万城目学さん、高野和明さん、誉田哲也さんと、改めてその名前を眺めると多彩な顔ぶれです。そして昨年2013年度も図書館を舞台に読書推進活動を続けてきた読プロの活動を報告します。

2013年は5月には「読んでみよう、新書！」というテーマで特集を行いました。学生は現代の小説を読むのが大好きなので、推薦本を選ぶとそちらに偏りがちです。しかし今回は読プロ学生委員のひとりが「自分の専攻、専修や興味に関わる新書をみんなで読もう！自分も読んでみたいので紹介しあえたら読むきっかけになる」という提案をして、この特集を行いました。続いて9月から映画原作本というテーマで特集を行いました。映画化もされたベストセラー『図書館戦争』、町田市が舞台に設定され映画撮影も町田駅周辺で行われた『まほろ駅前多田便利軒』、文豪ビクトル・ユゴー原作の『レ・ミゼラブル』など現代の話題作から古典まで多彩なおススメ本が揃いました。また12月には恒例の桜美林コメント大賞表彰式を読プロ学生委員たちの企画・運営により開催しました。コメント大賞とは、「学生時代に100冊の本を読もう」を合言葉に、本を読んだら大学生協に置かれた専用カードにコメントを書き、そのカードを学内で選考し優秀な作品を表彰するものです。今回のイベントには、いじめや児童虐待問題をとりあげた『ハッピーバースデー』（金の星社）の作者である青木和雄さん、吉富多美さんをお招きし、学生パネラーが作品について著者に質問しながら、作品を掘り下げていきました。イベント後半には会場からの何人もの学生から質問の手が挙がり、青木さん、吉富さんからいじめや教育問題について、専門家ならではの深い意見や熱い思いを聞くことができました。



ゲストの青木先生、吉富先生に質問する学生パネラー

読書運動プロジェクト 2013オススメ本 貸出回数

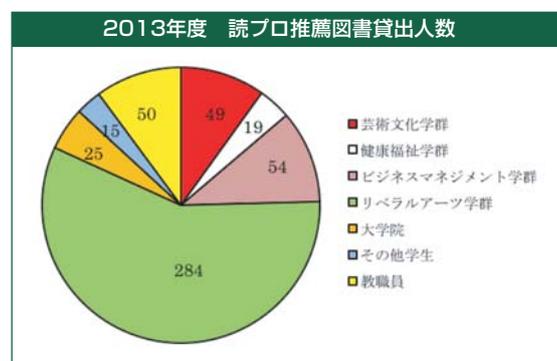
順位	書名	企画	回数	
1	大学の思い出は就活です（苦笑）：大学生生活50のお約束（ちくま新書）／石渡嶺司	新	35	
2	県庁おもてなし課（角川文庫）／有川浩	映	29	
3	「勉強しろ」と言わずに子供を勉強させる言葉（PHP新書）／小林公夫	新	27	
3	哲学のことば（岩波ジュニア新書）／左近司祥子	新	27	
3	武器としての決断思考（星海社新書）／瀧本哲史	新	27	
6	図書館戦争（角川文庫）／有川浩	映	26	
7	まほろ駅前多田便利軒（文春文庫）／三浦しをん	映	25	
8	ルポ差別と貧困の外国人労働者（光文社新書）／安田浩一	新	23	
8	脳男（講談社文庫）／首藤瓜於	映	23	
10	ツイッターってラジオだ！：ナンバーワンツイッター番組のパーソナリティがつぶやくあなたの味方を増やす59の方法（ニッポン放送）／吉田尚記	新	21	
11	舟を編む（光文社）／三浦しをん	映	20	
11	謎解きはディナーのあとで（小学館文庫）／東川篤哉	映	20	
13	ハッピーバースデー（金の星社）／青木和雄、吉富多美	イ	19	
13	ルポ若者ホームレス（ちくま新書）／飯島裕子、ビッグイシュー基金	新	19	
13	社会を変えるには（講談社現代新書）／小熊英二	新	19	
13	国家は僕らをまもらない：愛と自由の憲法論（朝日新書）／田村理	新	16	
17	伏：鷹作・里見八犬伝（文春文庫）／桜庭一樹	映	16	
17	翻訳夜話（文春新書）／村上春樹、柴田元幸	新	16	
18	独立国家のつくりかた（講談社現代新書）／坂口恭平	新	15	
19	宇宙は何でできているのか：素粒子物理学で解く宇宙の謎（幻冬舎新書）／村山斉	新	14	
19	科学と宗教と死（集英社新書）／加賀乙彦	新	14	
22	マンガの遺伝子（講談社現代新書）／斎藤宣彦	新	13	
22	レ・ミゼラブル 71刷改版 1（新潮文庫）／ユゴー	映	13	
24	HELP!キレル子どもたちの心の叫び：青木和雄のカウンセリングファイル（金の星社）／青木和雄	イ	8	
25	レ・ミゼラブル 71刷改版 2（新潮文庫）／ユゴー	映	3	
26	ハートボイス：いつか翔べる日（金の星社 ときめき文学館：3）／青木和雄	イ	2	
26	レ・ミゼラブル 71刷改版 3（新潮文庫）／ユゴー	映	2	
26	レ・ミゼラブル 71刷改版 4（新潮文庫）／ユゴー	映	2	
26	レ・ミゼラブル 71刷改版 5（新潮文庫）／ユゴー	映	2	
※新：読んでみよう新書 映：映画原作本 イ：イベント関連（集計期間2013/4/1～2014/1/31）			合計	496

今年の読プロオススメ図書館の利用状況を表にしてみました。トップの『大学の思い出は就活です（苦笑）：大学生生活50のお約束』（石渡嶺司著）は、一見、就職活動の本に見えますが、大学生活を有意義に過ごすために気をつけることを分かりやすく説いています。1年生、2年生のうちに読んでおくと役に立つ内容ですが、3年生、4年生の中には就活本と思って借りた人があるのかもしれません。2位の『県庁おもてなし課』（有川浩）は、同じ著者の『図書館戦争』とはひと味違った小説で、とある地方の県庁で働く若手職員の奮闘を描く観光エンターテインメント小説です。3位は同数で3タイトルあります。



多くの学生から質問の手が挙がりました

『「勉強しろ」と言わずに子供を勉強させる言葉』（小林公夫著）を借りた利用者のうち3年生、4年生が半数以上を占めており、教職課程の学生に興味を持って読まれたのではないかと推測しています。以下、哲学について平易な言葉で書かれた入門書『哲学のことば』（左近司祥子著）、著者が京都大学で教えている「意思決定の授業」をまとめた『武器としての決断思考』（瀧本哲史著）、前述の『図書館戦争』（有川浩）、『まほろ駅前多田便利軒』（三浦しをん）、日本の国際化にとまなう光と影を取材した『ルポ差別と貧困の外国人労働者』（安田浩一著）がよく読まれているようです。



(集計期間：2013/4/1～2014/1/31)

2013年度の読プロ推薦図書の貸出内訳は、芸術文化学群49人、健康福祉学群19人、ビジネスマネジメント学群54人、リベラルアーツ学群284人、大学院25人、その他学生（科目等履修生、留学生等）15人、教職員50人（以上、延べ人数）でした。表2でみると在籍学生数が多いリベラルアーツ学群が突出していることがわかります。現在の読プロメンバー構成は芸術文化学群、健康福祉学群、リベラルアーツ学群の学生ですが、ビジネスマネジメント学群からもメンバーになってもらい、ぜひ全学群で読書推進活動を進めて行きたいと読プロ学生委員は意気込んでいます。従来の企画に加えて、私たちと一っしょに福祉やスポーツ、ビジネス等をテーマにした読書会やオススメ本、企画などやってみませんか？読書好き、図書館好きな学生大募集中です。

最後に、読プロの先輩たちから新入生のみなさんへのメッセージです。

本のタイトルを言っただけで、たちまち誰かから反応が返ってくる、というのは得難い空間ではないでしょうか。パッと見ゆるそうだけど、しかしやる時はやる、しかしどこかみんな濃い。独特の空気が漂っています。先生も含めておもしろいです。それが読プロ！レッツゴー、スタインベック@崇貞館4階☆
(リベラルアーツ学群2年/鈴木優花さん)

私は夏からの途中参加だったため、まだまだ分かっていないところもあるかもしれませんが、明るくてのほほんとしたメンバーにいつも支えられて楽しく活動しています。去年の12月に行われた作家さんをお呼びしてのトークイベントでは、児童虐待やいじめについて学ぶことができました。健康福祉学群のメンバーは私一人だけなので、同じ学群の人にもぜひ入ってほしいです！
(健康福祉学群2年/勝又るいさん)

なぜ読書は推奨されるのでしょうか。確かに本を読まなくても生きていけるでしょう。しかし、それでも読書が良いとされるのは、その人に『隠し味』をプラスするからではないでしょうか。読プロの活動では、自分で見つけた『隠し味』を他の人と共有し、さらに深めることが出来ます。今年も読プロで、自分の、そして読書する友人たちの『隠し味』を、共に深める活動をしていきたいです。
(総合文化学群3年/酒井明砂子さん)

全ての学びは読書から。読書は人を豊かにします。我々読プロは、読書や本の魅力を学生の皆さんに紹介する活動をしています。みんなで好きな本のことや読書について語り合う、とても楽しい空間です。興味がある方、ぜひ僕たちの活動を見学に来てください！そして読書を通じて友だちになりましょう！
(リベラルアーツ学群4年/野口礼於くん)

ツイッター、フェイスブックでも検索してみてください。

twitter Twitterアカウント @obirin_reading

facebook 桜美林大学図書館読書運動プロジェクト

(注) 総合文化学群は2013年度から芸術文化学群に名称変更しました。

図書館長と話そう

「図書館長と話そう」を開催しました



図書館に対する学生たちの意見や思いを秀島武敏図書館長（リベラルアーツ学群教授）がきく「図書館長と話そう」を、11月6日（水）と12月9日（月）に開催しました。1回目は7名、2回目は10名の参加がありました。



なごやかな雰囲気の中、多くの意見が出された

図書館では、今後の桜美林大学図書館のあり方について、2013年度は図書委員会（図書委員の先生と図書館職員が構成メンバー）で意見交換や議論を重ねてきましたが、学生の率直な声や思いもきいてみたいということで、今回の開催となりました。

2回とも学生の皆さんからとても多くの意見が出て、活発な意見交換・情報交換が行なわれました。学生の皆さんから出たもので主なものをご紹介します。

やはり、施設に対する要望や意見が多く出されました。「階段が狭い。」「バリアフリーという観点からもエレベーターは必要である。」といったことは、2回とも複数の学生から指摘されました。エレベーターの設置は、現在の図書館の建物の構造では非常に困難ですので、残念ながらすぐには応えられない状況です。「新しい図書館を建ててほしい。」といった声も多くきかれ、新図書館の建設が待ち望まれるところです。

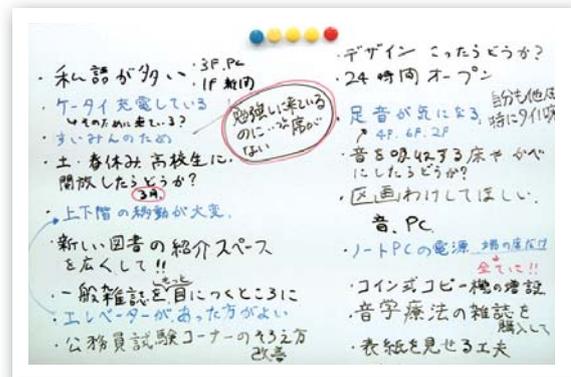
利用のマナーに関することや、勉強しやすい環境・利用しやすい環境を整えてほしいという点から、「電話をしたり音を出しても良いエリアと、静かなエリアを区画分けしてほしい。」「空調の温度調節（夏はもう少し涼しく）をしっかりとしてほしい。」「トイレの便座が冷たいので改善してほしい。」といったものもありました。他大学の図書館では、静かに勉強や読書をしたい人のためのクワイエットエリアと、パソコンや電卓の使用可能エリア、電話での通話可能エリア、飲食可能エリアなどをゾーン分けしているところもあります。

資料に関しては、「理系や芸術系の図書が少な

い。」「理系の本は奥まったところであって不便である。」「一般雑誌は（入口に近い）もっと目につくところに置いてほしい。1階まで行くのはちょっと面倒である。」といったことがあげられました。図書館では本の内容で分類して記号をつけて並べているため、たまたま理数系の本が奥まったところになってしまっているのですが、LA学群で最初は専攻する学生数が少なかった理数系の科目やゼミ等を学ぶ学生が増えてきているからこのような意見が出てきたとも思われます。

サービス面では、「私語が多い・うるさいと感じることがあるので、図書館のスタッフがきちんと注意してほしい。」「携帯電話の充電や昼寝だけをしに来ているような人にも注意してほしい。」という意見がありました。また、「貸出の期間を長くしてほしい。」「延滞している人へのペナルティをもっと厳しくして皆が守るようにしてほしい。」等の要望もありました。貸出期間に関しては、あまり長くしてしまうと、次の人が借りられるまでに時間がかかってしまうこともあり、バランスが難しいところですが、期限を守ってもらえるような工夫と、延長ができることの周知等は必要と思われます。

現在の図書館でもできそうなこととして、「大学生の利用が少なくなる春休みや夏休みの一部期間（3月や8月など）を高校生に開放したらどうだろうか。」という図書館をもっと活性化していくようなアイデアも出されました。



ホワイトボードにまとめた意見やアイデア

図書館では、学生の皆さんからの声やアイデアと、図書委員会で議論したことなどを踏まえて、少しずつできることから皆さんの要望にこたえて、利用しやすい・居心地の良い図書館にしていきたいと思っています。

（図書館メディアセンター 担当係長 三上 彰）

 研修会報告

2013年度 私立大学図書館協会東地区部会研究部研修会報告

2013年11月14日(木)～15日(金)にかけて、本学図書館も加盟している私立大学図書館協会東地区部会2013年度研修会が本学で開催され、62大学64名の私立大学図書館職員が参加しました。私立大学図書館協会は、大学図書館の改善発展を図ることを目的とし、さまざまな調査・研究及びその成果の刊行、研究会・講演会等の開催を行い、2013年度の加盟館は533館、私立大学の約9割が加盟しています。協会は東・西地区部会から成り、桜美林大学図書館は東地区部会に所属しています。

昨年(2012)度は震災と図書館に向き合うため「震災に学び、震災に備える」という研修会を中央大学で開催しましたが、今年度は「みつけよう・伝えよう大学図書館の魅力」というテーマで、大学図書館の広報戦略やブランディングの手法を学ぶため、参加者全員が桜美林大学図書館をPRするためのポスターを制作し、講師の方から講評を受けるという研修を行いました。筆者(佐々木)がこの研修委員会の委員を務めており、他の研修委員とともに研修会の企画、立案、準備を進めると同時に、今回の研修会会場校担当として任に当たりました。

会場担当校として本学図書館長の秀島武敏先生の挨拶に続き、本学の大学院・大学アドミニストレーション研究科教授の諸星裕先生からの基調講演「我が国大学の致命的欠陥－大学図書館は機能しているのか－」、午後は、図書館広報がご専門の帝京大学総合教育センター准教授の仁上幸治先生から「大学図書館サバイバルのためのブランディング戦略－コンセプトメイクからデザインングへ－」という講演をしていただきました。

講演の後は、いよいよ今回の研修テーマである桜美林大学図書館をPRするためのポスター制作に取り



掛かりました。まずは実際にポスターを作成するための事前ワークとして、グループごとに指定された建物から図書館へ学生たちを誘導するポスターを作るために、本学のキャンパスを実際に歩いて、構想を練るキャンパスツアーに出かけました。参加者を案内するのはボランティアで集まってくれた本学の学生たちです。芸術文化

学群、健康福祉学群、ビジネスマネジメント学群、リベラルアーツ学群すべての学群、そして大学院の学生も参加して、キャンパスツアーはとても盛り上がったとのこと。今回は日ごろからオープンキャンパスなどで活躍している学生も多く協力してくれたこともあり、おとなのみなさんを相手に、自分たちが学ぶキャンパスをきちんとアピールしてくれました。参加者のみなさんからも、「学生がしっかりしていて感心しました」「よい学生を育てていますね」とお褒めの言葉をいただきました。別に私たちが育てているわけではないのですが、本学の学生が他大学の方々から褒められるのは嬉しい気持ちになります。

二日目は朝からポスター制作に取りかかりました。まずは本日の講師であり、ブランディングの手法を用いた地域振興策の提案、大学・高等教育機関での講演を行っている渡邊崇さん(株式会社トランスヒューマン)から、図書館の価値を高めるためにはどうすればいいか、ポスター作りの具体的な企画立案について講演をしていただきました。その後、渡邊さんとコンビを組んでご活躍されているデザイナーの吉田勇さん(株式会社シカケ)のアドバイスのもと、参加者はグループに分かれ、ケント紙とサインペンを使ってそれぞれのテーマに沿ったポスター制作に取りかかりました。この日も学生ボランティアが参加し、各テーブルを回って参加者にアドバイスや指導(!)を行いました。そして参加者の方々も真剣に、そして学生たちと楽しげに会話しながら、ポスター制作は進行していきました。

熱のこもったポスター制作はお昼休憩をはさんで午後まで続き、それから各チームによるプレゼンが夕方まで続きました。時折飛び出す学生ボランティアの辛口な講評に会場がどっと沸く光景も見られ、全チームのプレゼンが終わったときにはすでに秋の日がゆっくりと丹沢の山の向こうに沈んでいきました。

今回の研修会では、誰をターゲットに何を伝えたいか?ということを確認にして広報戦略を練る、という手法の大切さを学びました。私たちも含めて、なんとなく思いついたコピー、前回と同じようなデザインでポスターを作っていたけれど、それでは利用者に何かを伝えることにはなっていないのだと痛感しました。参加者のみなさんも自分たちの大学図書館に戻って、今回の研修をこれからの広報戦略に活かしてくれることを期待しています。

なお今回、参加者のみなさんが桜美林大学図書館のために作ってくれたポスターは、いまでも図書館で活用しています。

(図書館メディアセンター課長 佐々木俊介)

図書館からのお知らせ



■図書館ガイダンスを開催します

図書館では個人申込みによるガイダンスを春学期と秋学期の2～3週間実施しています。授業で図書館ガイダンスに参加しなかった方、参加したけれど、もっと上のレベルのガイダンスを希望する方など、友だちと一緒に参加してみませんか？

あなたの必要なテーマにあわせて文献の探し方やツールをご案内します。新入生の方、もちろん、もう一度初歩から学びたい方も歓迎します。日時は図書館ホームページでお知らせします。

	月	火	水	木	金
13:00-13:40	本を探そう	図書館探検		新聞記事を探そう	論文を探そう
13:50-14:30	図書館探検	新聞記事を探そう		図書館探検	本を探そう
14:40-15:20	新聞記事を探そう	論文を探そう	新聞記事を探そう	本を探そう	図書館探検
15:30-16:10	論文を探そう	本を探そう	論文を探そう	論文を探そう	新聞記事を探そう
16:20-17:00			本を探そう		

図書館探検
図書館ツアー【入門】

▶館内ツアーで体験しながら資料と利用方法を覚える。

所要時間 **40分**

本を探そう
OPAC 検索ガイダンス
【初級】

▶OPAC検索で本を探す
▶書架で探す。

所要時間 **40分**

新聞記事を探そう
新聞記事検索ガイダンス
【初級・中級】

▶新聞縮刷版で記事を探す。
▶新聞データベースで記事を探す。

所要時間 **40分**

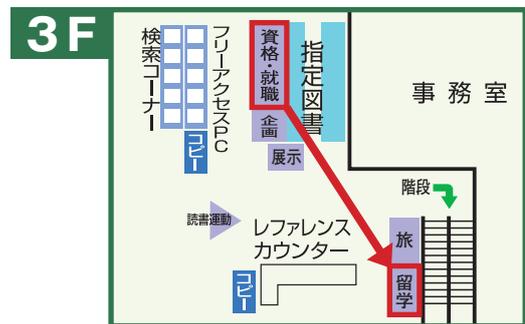
論文を探そう
雑誌論文検索ガイダンス
【中級】

▶雑誌の特徴を知る。
▶雑誌論文データベースで論文を探す。
▶他の図書館を利用する。

所要時間 **40分**

■三到図書館 3 階 【TOEFL のテキスト・問題集】 の場所が変わりました

資格・就職本コーナーから留学コーナーに移動しました。



● 編集後記 ●

私の高校時代、数学の授業のときのことである。授業終了まで時間が余ってしまったのだが、先生が突然黒板に数式を書き始めた。先生が言うには高等数学の証明とのことだったが、それでもポカンとして黒板を見つめる私たち。長大な数式を黒板いっぱい書き終えた先生は、ため息をついて「美しい証明ですねえ」と呟いた。私には何のことやらさっぱりわからなかったが、世の中にはこのような数式に「美」を感じることができる感性がある、ということは理解できた。／図書館の仕事はその多くを数字で表すことができる。例えば利用統計から見えてくるものは数多い。また、今年も新入生が大学にやってくるが、かれらも利用統計のなかでは数字として表される。しかし私たち図書館員はその数字から、かれらが大学生として学び成長するために、どのような蔵書を用意すべきか、環境を整えるべきかを読み取らねばならない。図書館の仕事は数字を抜きにしては語れない。(S)